



北川村保小中一体化 施設整備基本計画

～ 学びのひろば・ゆずのたね ～

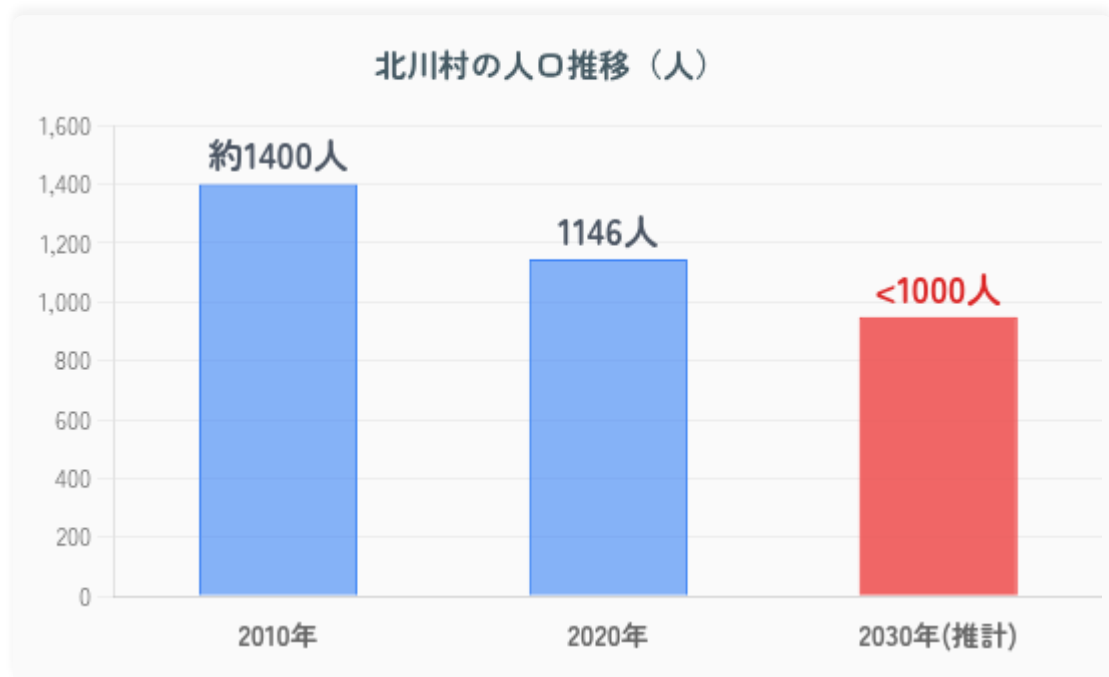
ダイジェスト版

令和8年4月

北川村教育委員会

なぜ今、動かなければならないのか

止まらない人口減少



1 学年当たりの園児児童生徒数

現在 (R7)

4.8人



5年後 (R12推計)

3.3人

❗ このままでは…

× 更なる少人数化（複式学級の拡大）

× 教員定数の減少（専門教科教員の不足）

× 学校の統廃合

「地域から学校をなくさない」

子どもたちの未来を守るため、魅力ある学校づくりへの挑戦が必要です

北川村の教育はここが魅力

北川村保小中一体化施設整備基本計画 第2章



保小中一体化（15年一貫教育）

保小連携や乗り入れ授業など、保育所から中学校まで、切れ目のない教育と指導を实践



北川学（地域学）

豊かな自然や歴史、ゆず産業などを教材に、郷土愛と探究心を育む村独自の学習を展開



食育

地場産物を活用した給食と、栽培・調理などを通じた食の学びを提供



外国語学習・異文化体験

オンライン英会話や、英語や海外の文化について学べる英語キャンプの機会を提供



公営塾（探究塾）

放課後の学習支援に加え、自ら課題を見つけ解決する力を養う探究学習を提供



地域ぐるみ教育

地域住民が学校運営に参画し、地域全体で子どもを育てる仕組みを導入



✔ ソフト面（教育内容）の充実を図ってきました。引き続き魅力と特色ある教育活動を充実させます。

これから目指す教育

❗ これまでの課題



人間関係の固定化

少人数かつ固定化された集団により、多様な価値観に触れる機会や切磋琢磨できる環境が不足。



校種間の壁・垣根

保・小・中で場所も組織も分断されており、一貫した指導やスムーズな接続、教職員間の連携が困難。



学びの環境の限界

個別最適な学びや協働学習に必要な機会・空間が不十分で、深い学びの実装が不十分。



義務教育学校制度の導入

小中一体の教育課程編成、全教職員による9年間の指導体制構築



「北川学」の体系化とつながりの強化

9年間の連続性を持ったカリキュラム設計と「食」を通じた地域とのつながり創出



言語学習・外国語教育の強化

国語教育・読み聞かせの充実、外国語・異文化に触れられる機会の充実



ICT・プログラミング教育の強化

情報活用能力の抜本的向上、村外・海外の学校との交流促進

※保育所では、これら教育の基礎となる「遊び」を大切にします。特に、五感を刺激する食育や、子どもの感情を動かし、想像を広げることにつながる読み聞かせなどに取り組みます。

なぜ新しい校舎が必要なのか

現在の校舎は **築60年**。

ソフト面の教育内容は充実しても、『器（施設）』が時代遅れでは十分な教育は実現できません。

老朽化した校舎をそのまま使い続けることは、**子どもたちの学びの質**や**生活の質**の面で限界を迎えています。

課題1



保育所と学校が離れている

物理的な距離が日常的・継続的な交流・連携の制約に。
(特に教職員からの意見)

課題2



今日的な教育ニーズ等への対応不足

従来型の教室では、交流や協働学習への対応が困難。
また、小学校には特別教室がなく、十分な体験学習が困難。
(特に子どもたちからの意見)

課題3



保育所・学校と地域との連携不足

これからの教育には地域の力が必要だが、
子どもたちの様子が分かりにくい、用事がなければ行きにくい。
(特に地域からの意見)

課題4



安全・快適な生活環境となっていない

トイレの洋式化、体育館への空調設置、バリアフリー化など、
現代の学校に求められる安全・快適な機能が欠如。
(特に子どもたちからの意見)



耐力度調査の結果

**国の改築事業は
補助対象外**
(改修事業については補助対象)



建て替えではなく...

**既存校舎の活用を前提に
機能改修・拡充へ**
(改修では対応できないものは増築)

コンセプト

学校 + 保育所 + 地域交流・共創のスペースが一体となった
『**学びのひろば・ゆずのたね**』の実現

3つの目標



保小中が混ざり合う保育・教育環境

0歳から15歳までの子どもたち・教職員が同じ敷地内で生活し、日常的に交流できる空間をつくります。



みんなで村の子どもを育てる環境

図書室や、家庭科室、音楽室などの特別教室を地域に開放し、日常的に村民らが集い、子どもと大人の活動が相互に作用し合う環境をつくります。



「村のリビング」のような拠点

誰もが気軽に立ち寄り、安心して過ごせる「リビング」のような憩いの空間をつくります。



「ただの学校」ではなく、「村全体の交流拠点」を目指します

新しい施設の形

📍 計画敷地

既存の北川小学校・北川中学校敷地

📊 概算事業費

約23億円

🏠 想定面積

義務教育学校

中学校校舎（改修）：1,300㎡
新校舎①（新築2F）：800㎡
新校舎②（新築2F/2F）：600㎡
合計：2,700㎡

保育所

新校舎②（新築1F/2F）：500㎡
合計：500㎡

地域共創空間（ラウンジ&図書室）

特別校舎（改修）：300㎡
合計：300㎡

★ 配置の考え方

- 中学校校舎を再利用し、義務教育学校の校舎を整備します。一部を建て替え、バリアフリー化を図ります。
- 上記の整備に伴い、小学校校舎は解体し、校庭等に充てます。
- 体育館は既存のもの、プールは小学校のものを再利用します。中学校のプールは解体し、駐車場等に整備します。
- 保育所は義務教育学校の東隣に新築し、学校との一体化を図ります。
- 園庭や校庭を園舎・校舎に隣接させ、回遊できる配置とします。
- 地域の人たちの憩いの場（ラウンジや図書室）を役場からアクセスしやすい位置に配置します。技術室や調理室などの特別教室を集約し、地域の人たちも使用できるよう、アクセスしやすい位置に配置します。
- 建物間にプロムナード（歩道）、それを遮らない形で駐車場・駐輪場を設け、歩車分離を徹底します。

配置計画案



今後、どのように進めるか



目標

次期学習指導要領の全面実施に合わせて、令和12年度（2030年度）開校を目指します。

年度

R8 (2026)

R9 (2027)

R10 (2028)

R11 (2029)

R12 (2030)

設計

基本設計・実施設計 公募型プロポーザル

建設工事

建設工事（安全最優先・段階的に）

開校

移転準備 →

開校

GOAL!

⚠ 事業手法について

設計と施工を分離して発注する「従来手法」を採用。
設計者は提案内容を重視する「公募型プロポーザル方式」により選定。

⚠ 財政負担の軽減について

既存校舎の改修方法や新築校舎の構造・施工方法等を十分に検討の上、予算規模の圧縮を図るとともに、国の補助等を最大限に活用することで、村の財政負担の軽減に努めること。

まとめ



なぜ必要か？

校舎は築60年。

子どもの学びの質・生活の質を守るために
校舎の見直しが必要です。



何を目指すのか？

保・小・中・地域が一つに。

保小中一体化と地域交流機能の融合を実現する
『学びのひろば・ゆずのたね』を作ります。



いつ完成するのか？

令和12年度（2030年度）開校。

次期学習指導要領の全面実施に合わせて
設計・工事を進めます。

子どもたちの未来のために、
今、北川村は動き出します。